



2007年5月入職

うえすぎむつみ  
上杉 睦

## プロ意識と思いやりの心を持って患者さまと向き合う

### リハビリから新しい発見が生まれる

リハビリをしているときは、どうしても気持ちが落ち込んでしまうものです。その時間を共有し、身体・精神の両面からサポートできる理学療法士になりたいと思うようになり、この仕事を志しました。いざ仕事に携わってみて強く思ったのが、精神的なサポートが非常に大切であるということです。リハビリを進めていくとある程度、身体機能は向上しますが、退院後も希望を持ってこれからの生活を送るためには気持ちを前向きに変えていかなければなりません。

患者さまの中には、けがや病気をしたことで外出ができなくなったり、趣味を辞めざるを得なかったりと、気持ちがふさぎ込んでしまうケースが多々あります。私は患者さまの気持ちを前向きに変えていくために、「家に帰ってどういう生活をしたいのか」など、希望を聞き出すことを常に意識しています。けがや病気になる以前の、元の生活を完全に取り戻すことは難しいかもしれませんが、リハビリがきっかけとなって新しい発見が生まれ、気持ちが前向きになることもあります。これからも、理学療法士として他の職種と連携しながら、患者さまの人生を好転させていきたいと思っています。

### 自分の「大切な人」である患者さまに思いやりの心を持つ



理学療法士はプロとしてリハビリを先導していく立場であり、患者さまからは先生と呼ばれることもあるのですが、私はそれを勘違いしてはいけないと思っています。患者さまは私たちよりも長く生きていらっしゃる人生の先輩であり、むしろ患者さまの方が先生です。先生と呼んでいただけるのなら、それだけの知識や技術を身に付け患者さまにリハビリの効果を提供するためのプロ意識が必要と考えております。

この仕事は、経験を積んでいくに連れて患者さまと向き合う意識が希薄になっていきがちですが、常に患者さまの視点に立ちながら、信頼を得るために言葉遣いや姿勢などを正すことが必要です。

理学療法士になったばかりのころ、上司から「自分の親を見るつもりで担当しなさい」という言葉を言われたことがあります。この言葉の真意を、キャリアを重ねるごとに身をもって感じています。もし自分の親が理学療法士から馴れ馴れしく話しかけられていたら、いい気はしないと思います。患者さま一人一人に、その患者さまのことを大切に思う人がいます。自分の大切な人を担当する気持ちで理学療法士も思いやりの心を持たなくてはならないと思います。これからもプロ意識と思いやりの心を持ちながら、リハビリの質を高めていきたいと思っています。



これからの

人生を豊かにする  
リハビリを!!

I support Your adding life to years.

上杉 睦